

---

メディアデザイン 02

メディア論01  
メディアを考える

兼子正勝

---

# 0. メディア論とは

# メディアとは

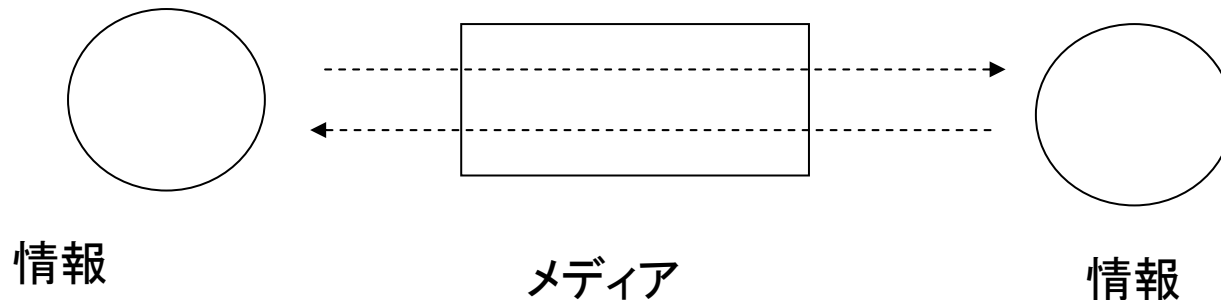
---

## メディア Media

ラテン語 複数形（単数形 medium）

媒体, 間に入るもの の意

情報伝達の際に, 間に入って伝達を媒介するもの

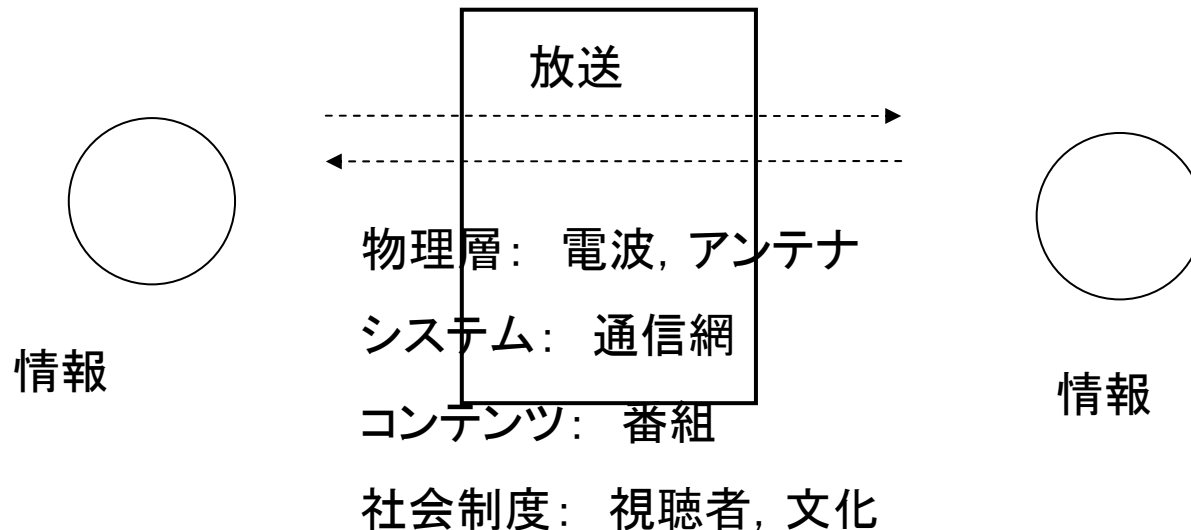


# メディアとは

---

## メディア

情報伝達の際に、間に入って伝達を媒介するもの  
具体的にどこからどこまで言うかは難しい



# メディア論とは

---

## メディア論 (≡ media studies)

- 広義: = media studies

メディアに関する理論, 分析, 研究のすべて

Mass communication, film studies, cultural studies, etc.

- 狭義:

マーシャル・マクルーハンの理論と, 後継者たちによるその応用

Cf. *Understanding Media*, McLuhan, 1964

# メディア論講義のポイント

---

- 1) メディアに意味があるということ
- 2) 個別メディアの特性
- 3) メディアとメディア研究の歴史
- 4) 現代的課題

---

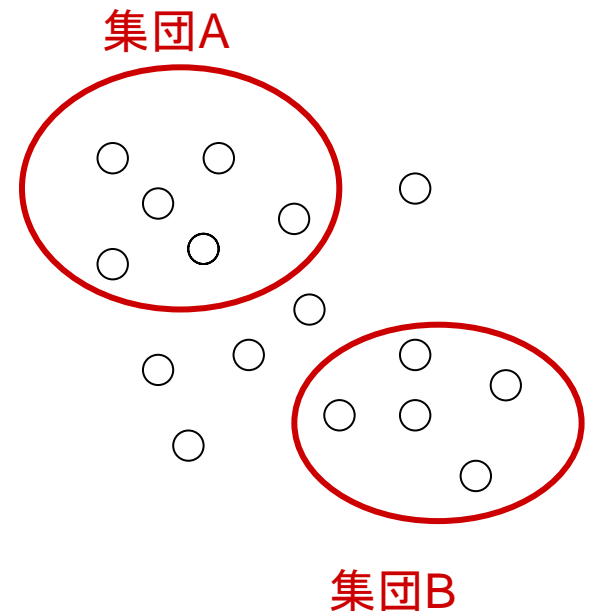
# 1. メディアに意味があるということ

# メディアは意味を持つ

- ・ あらゆる学問は対象を持つ
- ・ メディア論の対象はメディアである

Cf. 社会学の場合

- ・ 社会学は19世紀末に成立した
- ・ 社会集団を研究対象とする
- ・ 初期の論点のひとつ： 自殺を社会集団の問題として分析する





# 参考

## 自殺論

19世紀後半に欧州の自殺率の急上昇が話題になる中、デュルケームが39歳の1897年に公刊された。「社会学研究」というサブタイトルを持つ。

当時のヨーロッパ各国での自殺率が短期間ではほぼ一定値を示した統計資料などから、各社会は一定の社会自殺率を持っているとし、社会の特徴によって自殺がどのように異なるかを明らかにしようとした。デュルケームは、この研究において自殺を個々の人間の心理から説明するのではなく、社会的要因(社会的事実)から4つに類型化している。

公刊の2年前に著書「社会学的方法の基準」においてデュルケームは、「社会的事実の決定要因は、個人の意識ではなく先行した社会的事実にもとめねばならない」という説明の公準をたてており、その適用を本書で試みている。

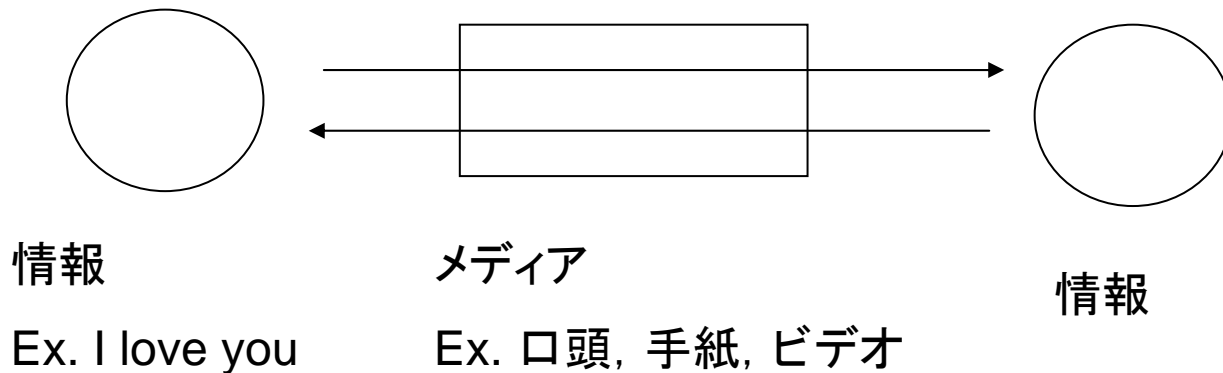
@wikipedia

# メディアは意味を持つ

---

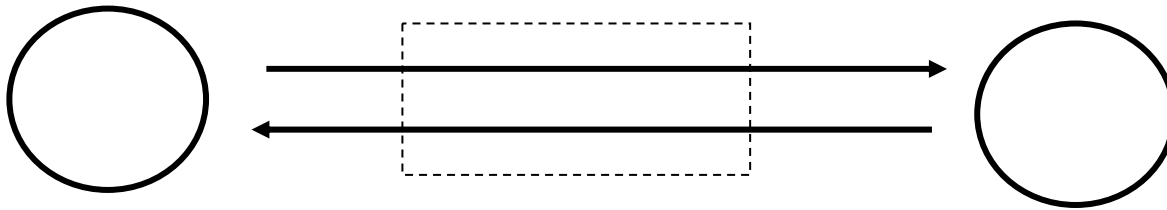
- **メディア論の基本スタンス**

情報伝達の場面において、情報ではなく、メディアを単位にしてものを考えることができる

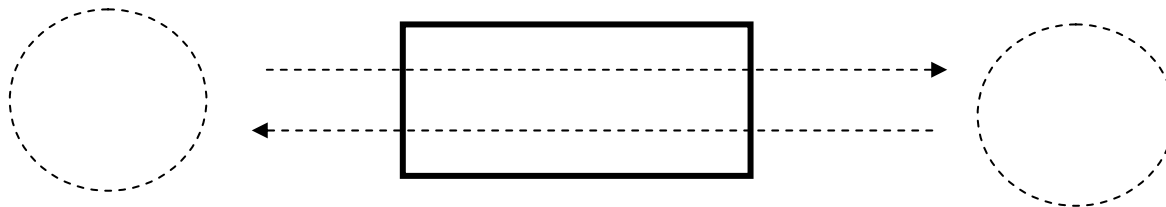


# メディアは意味を持つ

## 情報モデル／メディアモデル



情報モデル： あらかじめ情報が存在し、メディアを通して伝達される  
メディアが何であっても情報は変わらない



メディアモデル： メディアそのものが意味を持つ、メディアの変化によって  
情報の質等が変わる

# メディアは意味を持つ

---

## McLuhan

メディアに関して、メディアモデルの考え方を定式化した

メディアはメッセージである

*"the medium is the message"*

<Understanding Media, 1964

# メディアを考えるとということ

---

マーシャル・マクルーハン

Marshall McLuhan

(1911年7月21日 - 1980年12月31日)

カナダ. 1952年よりトロント大学教授. 英文学出身, メディアに関する理論を提唱



*The Gutenberg Galaxy*, 1962 (森常治訳『グーテンベルクの銀河系』竹内書店、1968年、みすず書房、1986年)

*Understanding Media: The Extensions of Man*, 1964 (栗原裕・河本仲聖訳『メディア論』みすず書房、1987年)

*The Mechanical Bride: Folklore of Industrial Man*, 1951 (『機械の花嫁』竹内書店)

*The Medium is the Massage*, 1967 (『メディアはマッサージである』)

# 背景その1

---

## 19世紀末からの哲学, 文学, 言語学等の変化

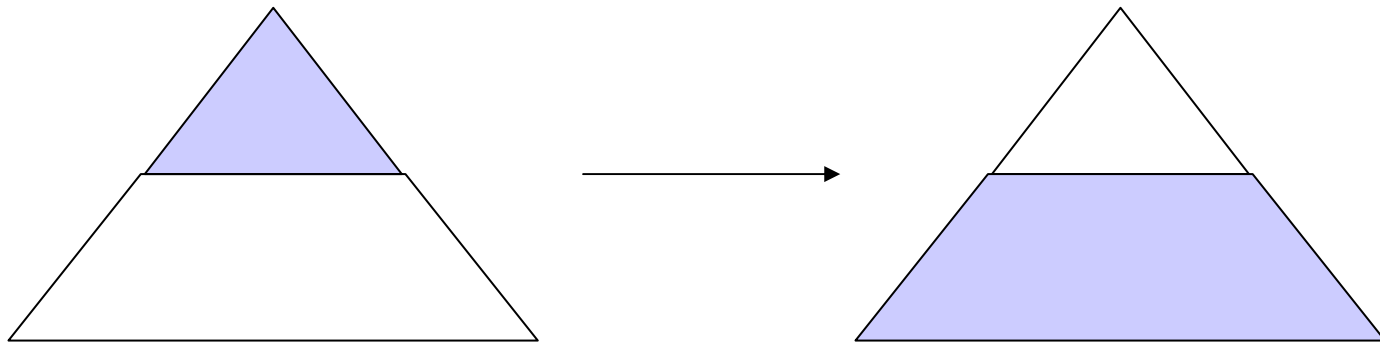
- 文学批評: 作者の意図の解析から, 言語表現そのものの解析へ
- 言語学: 言語そのものを研究する学問の成立, 19世紀末, F.ソシュール
- コミュニケーション論: コミュニケーションを対象とする学問の成立, cf. 言語行為論, 1950年代

# 背景その2

---

## 産業構造, 社会構造の変化

- 産業革命以前: 手作りの生産, 少数者による消費, 少数者(王など)が権力を保有
- 産業革命以後: 大量複製生産, 多数者による消費, 多数者(ブルジョワ階級)が権力を持つ



# 背景

## 産業構造の変化

- 産業革命以前：銀ムクの食器，1品もの，職人が製作，貴族など少数者が消費  
cf. 肖像画，本など
- 産業革命以後：銀メッキの食器，大量生産，工場で製造，大衆（有産階級）が消費  
cf. 写真，新聞小説など



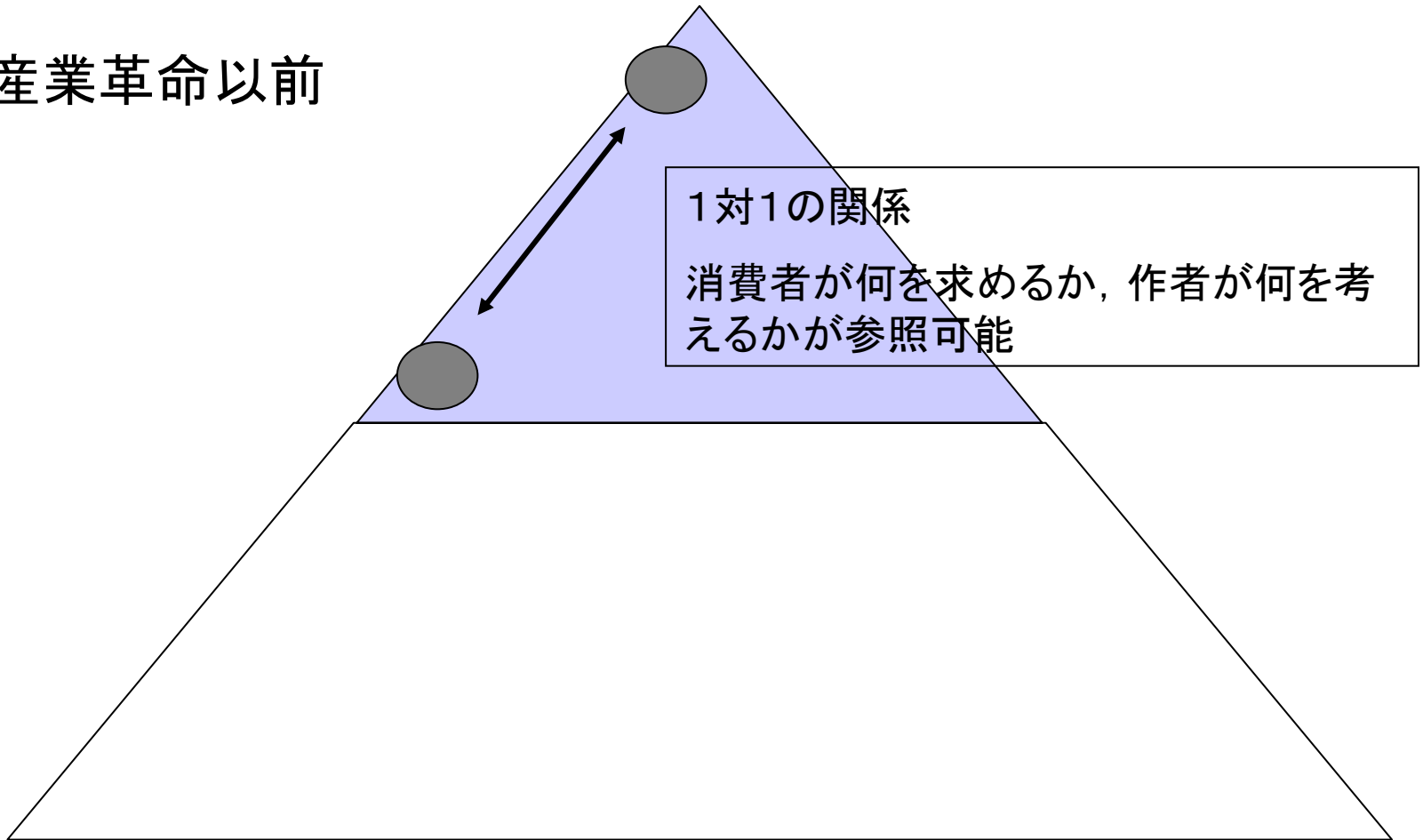
[クリストフル]  
フィデリオ コーヒースプーン 2P  
セット  
税込 8,400円（本体 8,000円）  
●クリストフルシルバー ●長さ  
約13.5cm × 2



# 背景

---

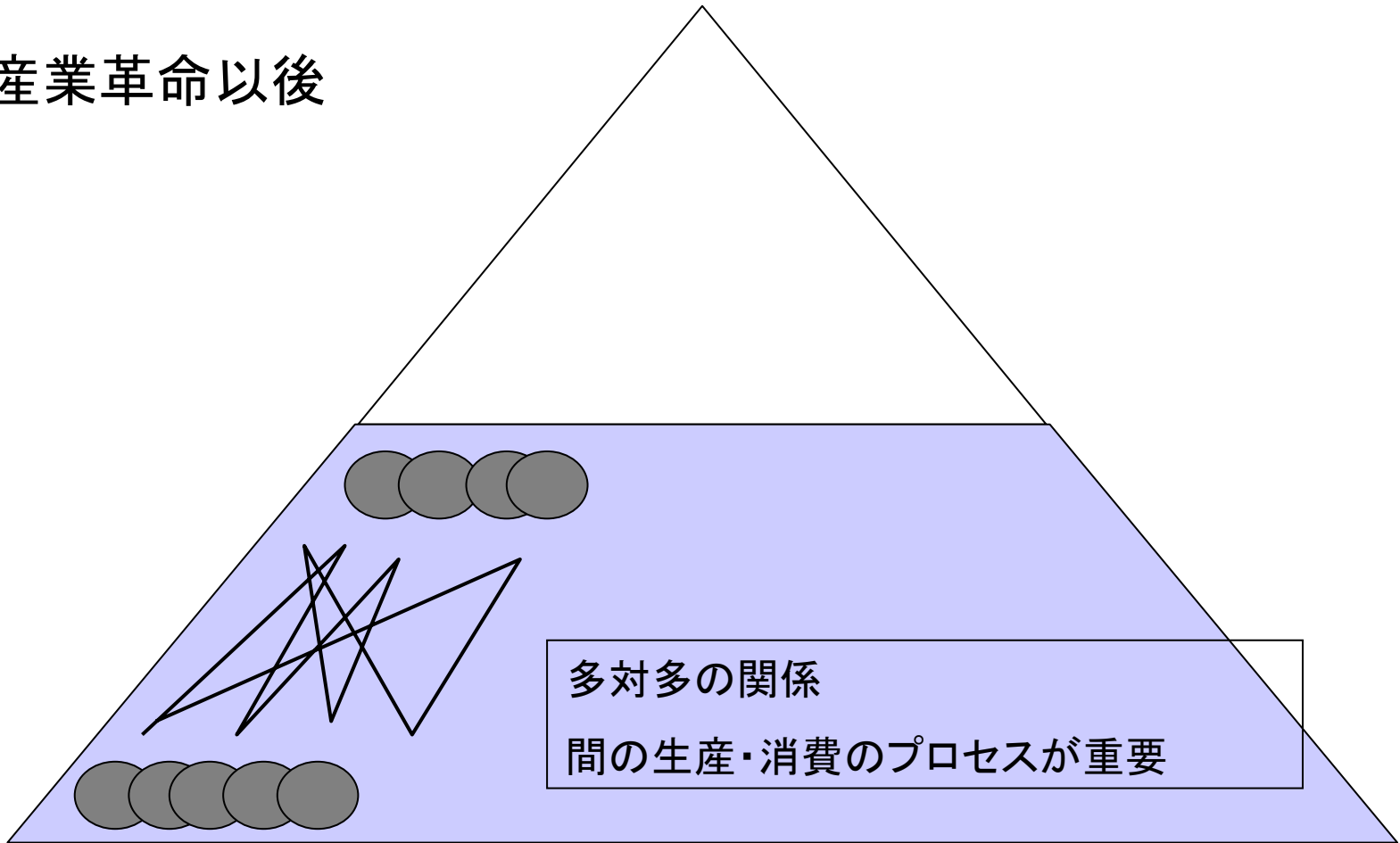
産業革命以前



# 背景

---

産業革命以後



# 参照

---

## 芸術・産業の同時変化を考えた論者

- シャルル／ボードレール(1821-1867)  
フランス19世紀の詩人, 批評家  
「1859年のサロン現代生活の画家」(1859)で, 大衆文化と芸術の関係を取り上げる
- ヴァルター／ベンヤミン(1892-1940)  
ドイツの批評家, 思想家  
「複製技術時代の芸術」(1933-39)で, 写真など複製技術の出現によって芸術がどう変わるかを考察